

関係各位

訃報

指揮者の小澤征爾水戸芸術館館長が、二月六日、心不全のため都内の自宅で永眠いたしました。享年八十八歳。

故人の意思により、葬儀は近親者のみで執り行いました。

以上謹んでお知らせ申し上げます。

※なお、ご遺族の御意向により、ご供花、ご香典、御弔問等はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

※後日、「お別れ会」を検討しております。

令和六年二月十日

水戸芸術館事務局

TEL 029 (227) 8111

FAX 029 (227) 8110

水戸芸術館館長として

1990年（平成2年）3月の開館以来、吉田秀和初代館長は、水戸芸術館の活動を常に国際的視野にたって運営の充実を図るとともに、市民に親しまれるように実践してきた。その結果、芸術館は、わが国の文化施設を代表する1つとなるとともに、水戸のまちの魅力を高める大きな存在となっている。

吉田秀和初代館長が2012年5月に逝去され、その後任者の条件として、

- ① 吉田館長が尽くされてきた水戸市の芸術・文化の高揚とともに、水戸から世界に向けた文化の発信ということについて、しっかり認識し、まちの中へ、人の心にとりという理念をあらためて胸に刻み、水戸芸術館のさらなる発展、そして、その魅力の発信を十二分にできること。
- ② 優れた芸術鑑賞の機会を提供するための「企画事業」や、子どもたちが一流の芸術文化に親しむ「教育普及事業」、市民の出演・出品による「地域共催事業」について、水戸芸術館ならではの自主事業をこれまで以上に展開できるアイデア、経験を持っていること。
- ③ 国内外に幅広い人的ネットワークを持っていること。

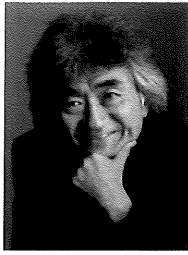
この様に条件を整理する中で、開館当初より水戸室内管弦楽団の音楽顧問を務めてきた小澤征爾さんが最適任と考え、水戸芸術館の館長に2013年4月に就任いただいた。（就任会見の発言要旨は別紙参照）

就任以来、水戸芸術館の運営の大きな特色となっている、専属楽団・劇団の設置、自主企画を中心とする事業展開を実施するとともに、水戸室内管弦楽団の子どものための音楽会や楽団員によるセミナー、楽器クリニックを積極的に開催するなど、芸術館の活動が多く市民にとって、より身近で親しまれるものになるよう努めていただいていた。

音楽、演劇、美術を 身近なものに

水戸芸術館館長

小澤 征爾



このたび、水戸芸術館の館長に就任いたしました小澤征爾です。

今から約20年前、吉田秀和先生が佐川元市長から運営を任されてこの芸術館を創る時に、吉田先生が私を鎌倉のご自宅に呼んで、室内管弦楽団を組織したいとおっしゃり、つくり上げたのが水戸室内管弦楽団です。それ以来ずっと、このコンサートホールで仲間たちと演奏を続けてきました。

まず、水戸芸術館の開館と同時に、水戸室内管弦楽団ができてきた、そのことが素晴らしいことだと思いました。ここが開館した1990年頃、全国各地にホールができましたが、ほとんどが貸しホールみたいなものになっているという状況の中で、建築家の磯崎新さんや照明家の吉井澄雄さんがいて、美術も演劇もやるということで、非常にユニークなことを水戸はやっているという印象を持っていました。

今回お引き受けした理由は、定期演奏会の度に水戸を訪れる中で、水戸室内管弦楽団が市民の皆さんに支持されて、愛されているということが分かり始めたためです。私は、音楽は人が生きる上で絶対に必要なものだとは思いませんが、何らかの力を持っていると思いますので、市の皆さんと協力して、音楽をより身近に感じていただけるようなことが出来れば嬉しいです。

初めてこのお話をお聞きした時に、指揮者が館長をできるかということと、それから健康の問題がありました。病気はいつ再発するか分からないと言われていたので、その検査を

ずっとして、つい最近に無事卒業という結果が出たので、こうしてお引き受けすることになりました。

もちろん私は指揮者ですから館長という職を務めたことがありませんので、自信があるかと言われるとそれほどありません。ただ、私の音楽家としての経験から言えば、音楽の場合は市民の方にその活動が受け入れられるということが一番大事なことだと思っています。

例えばこのホールは約700席しかありませんから、直にホールの中に来て下さる方は限られています。ですので、小学生や中学生に対して、水戸芸術館から出向いて、学校のホールや他の大きな施設などで演奏を聴いてもらい、あるいは水戸の学校はブラスバンドが優秀ということで、そうした学生とのつながりができると、そのご家族は、子供たちのことを見ていて、必ず興味を示してくれるだろうと思います。ぜひそうした活動を水戸でもさせて頂きたいと思っています。

今後は、これまで吉田先生が水戸芸術館で実践されてきたことを引き継いで、音楽・演劇・美術の3つが効率よく機能して、ますます発展するように関係者一同力を合わせて努めていきたいと思っています。

この芸術館には高いタワーがあつてみんなのシンボルになっていますが、館の活動についても街の人たちにもしみわたるようになり、身近に親しんで頂ければ、演奏家の私としてはまったく嬉しいし、本望であります。

「これは、二〇一三年四月四日に水戸芸術館会議場で行われた就任記者会見におけるあいさつをまとめたものです」

小澤征爾氏 略歴

1935年（昭和10年）9月1日、中国・シヤンヤン（旧・奉天）生まれ。

幼い頃からピアノを学び、成城学園中学校を出て、桐朋学園で斎藤秀雄に指揮を学ぶ。

1959年（昭和34年）、ブザンソン国際青年指揮者コンクールで第1位を獲得。

ヘルベルト・フォン・カラヤン、レナード・バーンスタインに師事し、指揮活動を開始する。

1973年（昭和48年）	ボストン交響楽団音楽監督（～2002年まで）
1984年（昭和59年）	サイトウ・キネン・オーケストラを組織
<u>1990年（平成2年）</u>	<u>水戸芸術館開館と同時に水戸室内管弦楽団結成、同楽団顧問に就任</u> <u>第1回定期演奏会を指揮</u>
1992年（平成4年）	サイトウ・キネン・フェスティバル松本を開始
<u>1998年（平成10年）</u>	<u>水戸室内管弦楽団第1回ヨーロッパ公演を指揮</u>
<u>2001年（平成13年）</u>	<u>水戸室内管弦楽団第2回ヨーロッパ公演を指揮</u>
2002年（平成14年）	元旦のウィーン・フィル「ニューイヤーコンサート」を指揮 ウィーン国立歌劇場音楽監督（～2010年まで）
<u>2004年（平成16年）</u>	<u>水戸室内管弦楽団「子どものための音楽会」を開始</u>
2008年（平成20年）	文化勲章受章
<u>2009年（平成21年）</u>	<u>水戸市文化栄誉賞</u>
2010年（平成22年）	ウィーン・フィルより名誉団員の称号授与
<u>2013年（平成25年）</u>	<u>吉田秀和氏の後を継いで水戸芸術館館長に就任</u> <u>同時に水戸室内管弦楽団総監督に就任</u>
2015年（平成27年）	ケネディ・センター名誉賞
2016年（平成28年）	ベルリン・フィルより名誉団員の称号授与
<u>2017年（平成29年）</u>	<u>水戸室内管弦楽団第100回定期演奏会を指揮</u>
2022年（令和4年）	日本芸術院会員